



Title	少子社会における多胎出産の増加と地域母子保健活動
Author(s)	早川, 和生
Citation	大阪公衆衛生. 1995, 68, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83769
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

寄稿 V

少子社会における多胎出産の 増加と地域母子保健活動

大阪大学医学部保健学科

早 川 和 生

1. 緒 言

双子、三つ子といった多胎出産が増加しています。特に、三胎以上の多胎出産が激増しており、少子社会の我が国において、非常に注目すべき動向となっています。

きめ細かな母子健康対策が必要とされる現在において、多胎児を産み育てる家庭への母子保健対策は、何故か空白のままになってい

ます。

多胎児は従来よりハイリスク・グループと言われながら、出産後の育児支援と母子保健対策は手つかずの状態にあるといっても過言ではないでしょう。多胎児の妊娠・出産・育児については、医療のみでなくケアの視点が欠かせません。多胎児の母子保健上の課題を概説してみたいと思います。

2. 母親のストレス・小児虐待

国立小児病院の小林登らの全国調査では、小児虐待の発生率は、単胎に比較して多胎で約7倍も高率です。米国でもGroothuisらの報告で、小児虐待の発生率は単胎2.4%、多胎18.9%と約8倍も高くなっています。多胎家庭に対するソーシャル・サポートの必要生を明確に示しています。

大阪府大東保健所の森定のアンケート調査によると、「妊娠がわかった時に非常に嬉しかった」母親は、単胎65%、双胎18%と著しい差異がみられた。妊娠の時点で既に、双胎の母親は育児意欲が減退していることを示唆しています。母子保健対策上、注目すべき結果です。

3. 育児上の課題

多胎家庭の抱える課題は、子供の数が単に多く育児負担が重いことのみでなく、多胎児に特有の課題を持っていることです。まず、その多くが低体重児として出産することがあげられます。双胎では平均出生時体重が約2.5kg弱です。同時に母乳の飲みも良くありません。母親は、わが子の体の小ささが常に心配になります。言葉の発達の遅れも課題になります。多胎児でしばしば見られるこれら諸問題は、一般に年齢とともに解消しますが、親にとっては大きな心配事です。

更に多胎児を育てる親は、日常の育児で悩む点が単胎児の親と異なるため、母親同士の集まりでも話が合わないことが多いのです。そして、身近に同じような双子や三つ子の親がいないため、多くの母親は悩みを抱えたまま孤立しがちとなっています。

4. 保健所等における育児教室の意義

現在、尼崎市東保健所など近畿地区の一部の保健所において、双子の育児教室が実施されるようになりました。いずれも母親から好評を博しています。保健所における多胎家庭

を対象にした育児教室の意義を大別すれば次の2点です。

- 1) 多胎児に特有の育児課題に対処する上で役立つ知識の提供：これは家族に対する衛生教育の一環です。これほど育児情報が氾濫する現代社会においても、多胎児の育児に関する書籍は驚くほど少ない。前述の低体重の問題、言葉の遅れ、同時授乳（二人に同時に母乳を与える）の仕方、2人の力関係など、親として知っておくべき基本的知識を提供できます。事前に知っていれば、問題が生じた時でもスムーズに対処できます。
- 2) 母親同士のネットワーク・互助グループ作りのきっかけとなる：行政機関の利点を生かして保健所管内の多胎家庭に呼び掛けて集まりを持てば、散在していた多胎家庭が相互に知り合いになり、孤立から脱却できます。日常の悩み事など話が合うので、困った時に助け合うネットワークも自然にできます。

5. 多胎家庭は現代福祉のパロメーター

多胎家庭は同時に多くの課題を抱えることから、現代の育児上の問題点が濃縮して見られる鏡のような存在とも考えられます。多胎家庭が安心して子育てできるような社会であれば、一般家庭でも同様に安心できる社会であるといえます。

古い歴史書の記録では、朝廷は多胎家庭に対して米、穀物、絹、織物、乳母などを授けたと記録が極めて多い。古代社会において、多胎は家族ひいては国家繁栄の瑞祥と考えられていました。古代の福祉行政に、現代社会が見劣りするようでは困るのです。